

## 令和2年度第4回コアメンバー会議 議事録【概要版】

日時：令和2年10月28日（水）19：00～21：00

場所：西条市役所本館5階大会議室

■出席者：別紙一覧の通り

■会議次第

1. これまでの整理
2. 今後の方針・進め方
3. 意見交換
4. 次回について

■議事等概要

### 1. これまでの整理

[事務局] 今年度第1回会議において、市から、ローカルファンドを具現化するために、コミュニティ財団の設立を目指していこうと提案した。その中で、その意義を明らかにする設立趣旨書の策定を今年度のゴールとしてやっていきませんかという提案をし、その後、第2回、3回と議論を重ね様々な意見があった。

### 前回（第3回）の意見抜粋

- ・財団を設立すべきかどうか判断すべき時期が近いのでは？
- ・ネックは各個人の腹落ち感の相違
- ・財団設立の現実性が見いだせない
- ・議論が深まっているとは言い難い
- ・資料が提示されてもこの場で深めることがない
- ・行政に「設立に向けて動きましょう」と言われた方がすっきりする
- ・人がお金を出すものは思い入れがあるもの。それ以外は難しい→ビジョンに繋がる

こういった意見があり、「財団ありき」で考えていくと、どうしても仕組みや資金調達を持続できるのかという不安感や疑問が多数挙がり、財団の目指すところ等の本質的な意義の部分に議論が発展しなかった。持続的な仕組みには、ここの意義のところが重要。市から資料を提示して、それについて議論しましょうというのではなく、皆さんの活動に本当に必要なものは何なのかを考えるべきだと思う。まだまだその内容が共有できていなかったり、お互い見えていないところがある。もっと話し合いをしていくことが必要だと思う。

## 2. 今後の方針・進め方

### コアメンバー会議の今後のスケジュール

・議論する1年（～2021年3月）※令和2年度

⇒ 仕組みを構築する1年（～2022年3月）※令和3年度

⇒ 実施・試行してみる1年（2022年4月～）※令和4年度

という想定で、令和4年度から「何らかのカタチで動き出してみる」ことを、今後の新たな目標にしたい。

[事務局] 令和4年度の動き出し方は、この会議の中で、必要なものをみんなで出し合って、それをカタチにしたい。財団というカタチに限らず、西条版のローカルファンドで何が 필요한のか、というところをこれから話し合っていていきたい。

[メンバー] 西条版のローカルファンドを構築しようという根本は変わらず、その手段として、これまで財団の事を話していたが、他の様々な手段も含めての議論を行っていくということですね。

[事務局] はい。財団という前提でこれまで話をしていたので、資金面の仕組みとしてのイメージがあると思うが、いったん白紙に戻していただきたい。その必要なものを、みんなで考えていきたい。

[メンバー] 何でもいい、となると、考えにくいのではないかと。活動の分野や目的はそれぞれ違う。仮に、ローカルファンドとして誰かが事務局になったとして、アドバイスをくれるのか、一緒に動いてくれるのか。支援の分野は多数あり、万能な方が何人か必要になる。今ある市民活動支援センターやサイクス、行政等、既存のものでまかなえるのではないかと。

[事務局] 現状でうまくいっている団体はそれで構わないが、制度の狭間にある活動や団体もあると思う。また分野が多過ぎるとも思うが、皆さん、活動でまちをよくしたい、元気にしたい、次の世代に繋げていきたい、というところは一緒だと思う。

[メンバー] そこはみなさん一緒だと思う。団体として、手助けしてくれる団体なのか、相談したときに一緒に動いてくれる団体なのか、それともここに行きなさいと指示するだけの団体なのか、それがわからない。

[事務局] その部分もゼロ。本当に必要なものをこれから話し合っていていきたい。

[メンバー] 今までの議論の中のイメージから離れるのはしんどいかもしれないが、事務局が言われた必要なものというところにもう一回立ち返って考えたら、新しいものが生まれるのではないか。

実際、自分も色々な団体に相談をしているが、全部がうまくいっているわけではない。資金的にも苦しいし、応援や協力してくれる人が欲しい。人を紹介してくれるのも本当に助かる。そうしてなんとか実績を積み上げないと、活動が継続できない。そこに新しい仕組みが出来れば、助かるものがある。人の紹介とか、応援してくれるものが欲しいですね。

[メンバー] 私の団体だったら、私の代わりが欲しい。

[事務局] 次につなげるために皆さん活動されていると思うが、そういう次に交代できるような仕組みっていうのもあるといいと思う。

[メンバー] みんな困っていることは違う。そういうのをみんなでとりあえず持ち寄ってみよう。その中から、これはもう既存団体で出来るよねとか、だんだん煮詰めていこうっていう話で、まずは自由に意見を出していこう。

### 3. 意見交換

テーマ①現在の活動や仕事を通じて目指していることは？困っていること（悩み）は？

- ・西条の地域がよくなってほしい
- ・様々な課題を自分事としてとらえてもらい、仲間をもっと増やしたい
- ・やっている人とやっていない人の分断が生じている
- ・地域共生を目指している
- ・隣近所のコミュニティすら把握できていない 人と人との繋がりが情報を簡単に得られるようになり失われている
- ・人、時間、お金がどうしても足りない
- ・行政や専門機関の制度等、既存の支援の枠組みからはみ出す人が出てしまう。制度として線引きは仕方がないが、世の中には支援が受けられない人がいる。
- ・何か事業を始めたい人が、社会的信用がなく取り組むことができない。
- ・資金面で困っている（人件費等にも充てられる補助金がほしい）
- ・助成金だけに頼っていていいのか
- ・寄附を集める人の不足
- ・潜在的にいる、寄付できる人や困っている人の役に立ちたい人へのアプローチが難しい
- ・支援が必要な人に支援情報が届いているかが分からない 個人情報問題もある

テーマ②その困りごと、悩んでいることを解決するためには、どんな仕組みや要素があればいいと思いますか？（例 人のつながり・資源・資金・情報など）

- ・プレイヤーでなくても、小さな応援、寄付ができる仕組み→自分事として考える人が増えて地域の底上げになる。
- ・既存の枠組みでははみ出す人が出てしまう→緩和された枠組み
- ・お金。（活動のPRができたり、他のビジネスとつながれたり、人を雇うこともできる。）
- ・熱意を持って活動する人をサポートする仕組み
- ・単に仕組みを作ったらいいいということではなく、仕組みができたとしても、なぜその仕組みが必要なのかというところについて理解や対話を深めていく必要がある。
- ・本当に必要な人に届くように、教育、情報発信も含めて、やっていかないといけない。
- ・寄附をすることとか繋がり合いに意味を見つけれない人からすれば、このような仕組みは必要ないと思うので、まず、なぜ必要なのかっていうことを理解してもらうために、対話やPRしていかないといけない。
- ・活動のアピールの場、対話できる場
- ・情報を形作る仕組み、見える化
- ・固定費のかからない物件があるといい
- ・ネットがなく広報誌も得られない人に情報を伝える仕組み
- ・情報を集約し、ワンストップで対応可能な仕組み
- ・人件費に充てられる助成金、使い道の自由度が高い助成金
- ・ふるさと納税による寄附意識の向上
- ・お金を持っている人、地域に貢献したい人が、寄附したお金の使い道に納得できる仕組み
- ・使い道が自由なお金、仕組み
- ・人をつなぐ組織
- ・より多くの人を巻き込む動き
- ・協力者を増やすために自分がしている活動を知ってもらう

#### 4. 次回について

[事務局] 今後こういった議論を深め、仕組みを考え、令和4年度から動き出せたらと考えている。区切りを意識しつつ、自由に意見交換をして、本当に必要な仕組みになるように話し合っていきたい。

「了」